

ウインドオーケストラのためのマインドスケープの演奏にあたっての注意点をかたんに書いてみました。  
一読いただけますようお願いいたします。

ごあいさつ みなさま、御世話になります。  
1986年卒業の明石健治と申します。  
バスーン吹きです。  
縁あって今年度のOBOG合同演奏曲の指揮をすることとなりました。  
力不足な点がたくさんある指揮者です。  
いっしょうけんめいやりますが、至らない点がたくさんあると思います。  
その分みなさまの力を注力いただきますようお願いいたします。

カット箇所 中盤の練習番号7, 8, 9, 10, 11, 12,  
後半の練習番号21, 22 をカットします。  
カットの前後のつなぎのために、少しだけ楽譜をいじっていますのでご注意ください。(この読み物に詳細を記しています)

個別の注意  
序奏部 ☆ 8小節目まではフェルマータだらけなので、棒が動くところ、動かないところを注意してください。  
譜例のように合図を出します。

- ↑ 上向き矢印の箇所では「出」の合図を出します。
- 右向き矢印の部分では棒を動かして拍を刻みます。(インテンポ)
- ⊗ この音符を目安にフェルマータさせます。

☆ 1小節目の Tam tam の一発は曲の始まりの合図です。 気合いを入れてください。  
ピアノシモですが、鳴ってるか鳴ってないか分からないようでは困りますので、1段階ほど大きめにやらしてください。

この曲では曲想の変わり目にこのような打楽器の一発が入っている箇所があちこちにありま  
それらは、奏者や観客に「ここから新しいものが始まりますよ」と場面転換をお知らせする合図だと思ってください。  
「合図」ですので、奏者にも観客にも分かるようにしましょう。

☆ 2～3小節目の Bar Chime と Suspended Cymbals は楽譜上に「波線」のついている間は演奏し続けてください。  
(8～9小節目も同様です)

☆ 3小節目の3拍目から Marimba で主題が断片的に奏されます。  
5小節目からは主題が通して奏されます。  
1回目はためらうように、二回目は思い切って。

練習番号2 ☆ Ob, Cor, 金管低音以外で主題が奏されます。

☆ Ob と Cor の四分音符  
Chime と同じような音型になるように演奏してください。  
押すように吹かないでください。

☆ 6小節目のリタルダント  
4拍目は振りませんので、それまでの減速具合に従って入ってください。  
本来4拍目を振る部分で [練習番号3] の予備拍を出します。  
予備拍は2拍分振ります。

練習番号3 ☆ 12/8 の主題は最初のモチーフの変形です。  
この曲ではこのようにひとつのモチーフがいくつにも姿を変えて現れてゆきます。  
その移り変わりを楽しんでください。

☆ 12/8 は注意すべき拍子です。  
本来 12/8 は 4拍子のそれぞれの拍が3つに分割されたものなのですが、この曲ではそれが一筋縄では行かないのです。  
強拍の位置は小節毎に、パート毎に自由に移動し、複雑なリズムを作っています。  
譜例のように、強拍 (アクセント) は長い音価を持つ音符、タイがかかっている音符、スラーの頭の音符においてください。

☆ 小節のアタマの八分休符は長くなりがちです!!  
譜例に示す四分音符は絶対に遅れないようにしてください!!  
これが遅れると曲全体のテンポが遅れてしまい、ダラダラの曲になってしまいます。



強拍 (アクセントを付ける) となる音



遅れてはいけない (遅れがちになってしまう) 音

☆ 1から8小節目にわたって、Pno の音を聴かせたいと思います。  
しっかり響かせてください。

☆ 1から4小節目にわたって、Tub が音量的に飛び出ないようにお願いします。  
Pno と並び立て聞こえるようにして頂きたいです。

☆ 3から8小節目は木管低音が溶け合って聞こえるようにお願いします。  
音段活躍出来ない楽器が活躍する箇所ので気持ちよいところなのですが、「mp」です。

☆ 9から12小節目に渡って3部の輪唱になっています。

- 第一群 Ob, EsCl, Cl.1, S.Sax
- 第二群 Cl.2, CL.3, A.Sax2
- 第三群 Bsn, A.Cl. B.Cl, T.Sax, B.Sax

どんどん強い敵が襲ってくるように、後の群は前の群に埋もれてしまわないように主張してください。  
特に出だしの4分音符は「ここから始まる」のを主張してください。

Soprano Sax.



- 第一群の始まり
- 第二群の始まり
- 第三群の始まり

練習番号4 ☆ 1～3小節目

全奏で主題が奏されます。  
これも最初の主題の変奏です。

練習番号4 ☆ 5小節目からはタレ易い箇所です。

練習番号5  
S.Sax ソロの躍動感を演出するためにも、タレないようにお願いします。  
音符のアタックを確実に出すようにしてください。

☆ この部分は、CL.1, CL.2, Cl.3, A.Cl, B.CL, Pno で2拍子、4拍子、6拍子が混ざったような複雑なリズムを作っています。  
常に八分音符を刻んでいるのは Pno です。  
Pno はひたすら刻んでください。

☆ Cl.1, Cl.2 は吹く場所/休む場所がはっきりしています。  
休む場所(休符)の箇所でもホントに休まないようにしてください。  
休符の箇所も刻んでいないと、そこでタレてしまいます。  
特に Cl.2 の休符の直前の八分音符はしっかり切るようにしてください。

☆ メロディ群の吹き方

前述のように、強拍(アクセント)は長い音価を持つ音符、タイがかかっている音符、スラーの頭の音符においてください。

この主題も最初の動機の変奏です。  
その変奏したものから、さらに次へと発展していきます。  
たとえば、譜例(練習番号4の11～12小節目)をご覧ください。



譜例の2小節目はそのまま、練習番号6の主題となっています。

練習番号6 ☆ 前述のように練習番号4の12小節目から派生してきたメロディーです。

しつこいですが、強拍(アクセント)は長い音価を持つ音符、タイがかかっている音符、スラーの頭の音符においてください。

☆ タンプリンの一発で始まります。  
前述のようにこの部分の開始の合図です。  
奏者にも観客にも聴かせましょう。

☆ タンプリン等の刻みのパートとメロディーのパートでアクセントの位置が異なります。  
譜例の通りです。  
このアクセントの違いを強調させてください。



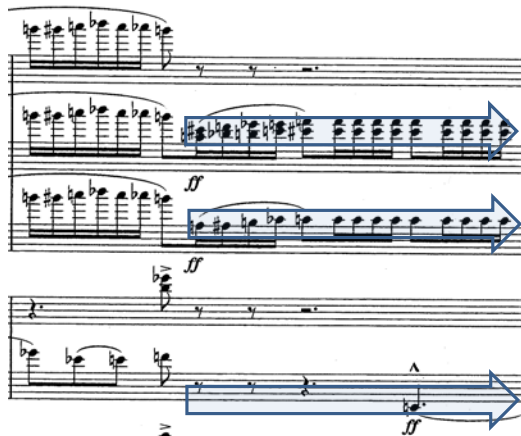
刻みとメロディーでアクセントがずれている拍

☆ 譜例のように Pic. Fl パートに高音域の速いパッセージが出てきます。  
難しい箇所とは思いますが、落とさないように鍛えて頂けますようお願いいたします。  
難しいと思しますので、落としても責めません。  
ただし、落としたら次の拍からリカバリーしましょう。  
落としたり、と行って落ちたままにはなりません。



☆ 練習番号7, 8, 9, 10, 11, 12 をカットします。

譜例のとおり、曲のつなぎのため、10小節目の2拍目のウラ以降を休符としてください。



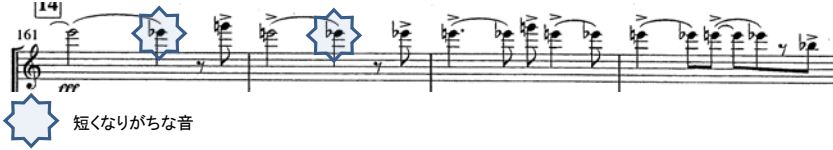
カットする部分

☆ 練習番号7, 8, 9, 10, 11, 12 をカットします。

練習番号13 ☆ 譜例のように練習番号13の直前に、それまでの八分音符の長さは変わらないとの指示があります。  
この指示をそのまま採用します。  
直前までは12/8拍子、ここからは4/4拍子のため、四分音符=180 となります。



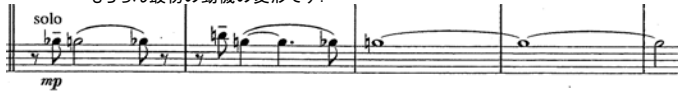
練習番号14 ☆ このメロディも最初のモチーフの変形です。  
譜例に示す3拍目の四分音符が短くなりがちですが、音符分伸ばしてください。



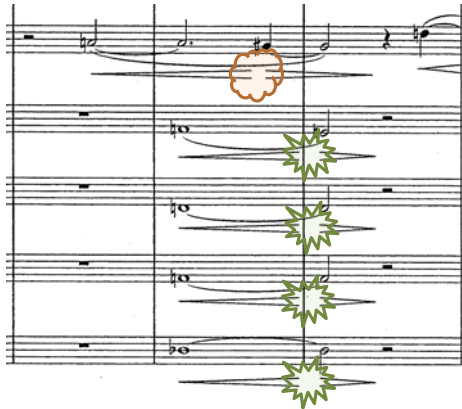
☆ 5小節目から長い長い dim があります。  
7小節目から長い長い rit があります。  
練習番号15に入るまで長く長くよとずつ dim と rit をかけてください。  
激しい部分での爆発感をここで納めて練習番号15からの静かな部分へと移行させるために必要な dim と rit です。

練習番号15 ☆ TamTamの一笑から始まります。  
前述のようにこの場面転換の合図です。  
奏者にも観客にも聴かせましょう。

☆ Bsnの2小節はのちにObでも繰り返されます。  
もちろん最初の動機の変形です。



☆ 6小節目からの Cl のフレーズはのクレッシェンドデクレッシェンドに面白い仕掛けが施されています。  
譜例のように Cl.1, Vibraphone と Cl.2, Cl.3, A.Cl, B.Cl, Marimba でクレッシェンドデクレッシェンドの頂点が1拍分ズラされています。  
ズレている事を強調するように演奏してください。



Cl.1, Vibraphone のクレッシェンドデクレッシェンドの頂点



Cl.2, Cl.3, A.Cl, B.Cl, Marimba のクレッシェンドデクレッシェンドの頂点

☆ クレッシェンドデクレッシェンドのズレは15小節目でようやく解消されます。  
このデクレッシェンドはの減衰は消えるようにお願いします。  
ところが一方、A.Sax.2 が一人だけ譜例のように違う事を始めます。  
楽譜は間違っていないので自信を持って吹いてください。



ひとりだけ違うことをやってる A.Sax.2

練習番号16 ☆ 17小節目3拍目は振りますが、4拍目は振りません。  
この2拍の間にテンポ感をリセットして練習番号17に入ります。

練習番号17 ☆ ここからテンポが60に落ちます。  
直前の2拍は棒を振りません。  
この2拍の間にテンポ感をリセットしてください。

☆ Triangle の一発で場面転換です。  
奏者にも観客にも聞こえるようにお願いします。

☆ 譜例のように、1~4小節目にはアーティキュレーションの指示が楽譜に記されていません。  
この間は一音一音をそっと置くように吹いてください。  
スラーとは一線を画して吹いてください。  
音のアタマにアタックは付け不要です。

The image shows two systems of musical notation. The first system consists of two staves. The upper staff has a dynamic marking of *mf* and a rehearsal mark 'a2'. The lower staff also has a dynamic marking of *mf*. The second system consists of two staves. The upper staff has a dynamic marking of *mp* and the instruction '1 Play'. The lower staff has a dynamic marking of *mp* and the instruction 'tutti'. The notation includes various musical symbols such as notes, rests, and dynamic markings.

☆ 譜例のように、6小節目から Bsn, Hrn.1 に牧歌的な5度上昇のフレーズがあります。  
レガートではありません。  
マルカートで吹いてください。  
前述の主旋律とは違い、少しアタックを付けてください。






The image shows a single staff of musical notation. It begins with a first ending bracket labeled '1.'. The notes are marked with a dynamic of *mf*. A slur is placed over the notes, and there is a dynamic marking of *mf* at the beginning of the staff.

練習番号18 ☆ アーティキュレーションの指示が楽譜に記されていない1~4小節目は練習番号17と同じように演奏してください。

☆ 5小節目から poco stringendo です。  
ちよびつとだけ stringendo してください。

☆ 9小節目は a tempo です。  
stringendo する直前の 60 に戻してください。

☆ 譜例のように、9小節目から5度上昇のフレーズが再び現れます。  
5度上昇進行のフレーズは、連取番号17では脇役でしたが、ここでは主役です。  
この進行は、A.Sax ではひとまとまりのスラーで奏されます。なめらかな演奏をお願いします。  
一方、ベルトーンで分割して吹いているパートもあります。  
ベルトーンのパートは、第一群(Trb.1, Trb.2)、第二群(Hrn, Cor)、第三群(Trp.1, Trp.2)、(第四群(Fl, Ob, EsCl, Cl)へと上昇しつつ盛り上がっていきます。  
こちらはレガートではなく、少しアタックを付けて力強く演奏してください。  
後ろの群の方が前の群より弱くならないようにしてください。

-  ベルトーン的第一群
-  第二群
-  第三群
-  第四群
-  同じフレーズをスラーで奏するパート



練習番号19 ☆ ここから速くなります (70になる)

いきなり速くなります。  
譜例に示すシンコペーションの音でモタリがちになりますので、モタらないように気をつけてください。  
この部分は練習番号14の変奏になっています。  
もちろん最初の動機の発展形です。

ff

モタリがちな音

練習番号20 ☆ 1~2小節目まで

金管高・中音部は練習番号17に現れた Ob. の旋律と同型です。  
一方、木管高音部の旋律は、同じもの発展形である一方、この主題の変奏で、倍の速さになっています。  
これらが同時に演奏されます。  
同じ動機が発展されて再度出会う感動的なシーンです。  
フォルテシモで明るく元気よく奏してください。

- ☆ 2小節目の4拍目 (木管群ではタイがかかっている音符) が伸びがちになってしまいます。  
この音が伸びすぎると次の部分がモタってしまいますので気をつけてください。

金管群

20

木管群

伸びがちな音

- ☆ 3~7小節目3連符→4連符→5連符...とどんどん加速していきます。  
テンポは70のままですので注意してください。

- ☆ 木管群のすさまじい上昇形で盛り上げた頂点はトロンボーンのはーもーにーです。  
これは最初の動機の変奏です。  
このトロンボーンのはーもーにーはここにおいてようやくミュート無しで奏されます。  
ミュート無しでのトロンボーンのはーもーにーを会場に響き渡らせてください。  
二拍おくれで、Cl, A.Sax, T.Sax, Euph で対旋律が現れます。  
もちろんこれも最初の動機の変奏です。  
これらが同時に演奏されます。  
同じ動機が発展されて再度出会う感動的なシーンです。  
フォルテで明るく元気よく奏してください。

Trb. 1-2

B. Trb.

Euph.

- ☆ 練習番号21, 22 をカットします。  
曲のつなぎのため、練習番号20を通した後、練習番号21の1小節目を Ob. だけで演奏してください。

21 Andantino espressivo (♩=70)

solo

mf

Ob. だけでこの小節を吹く

- ☆ 練習番号21, 22 をカットします。

練習番号23 ☆ テンポが変わります (60)  
直前のOb. の吹き伸ばしの感にテンポ感をリセットしてください。

- ☆ 練習番号17の旋律が帰ってきました。  
練習番号17と同じように演奏してください。  
4小節の間は一音一音をそっと置くように吹いてください。  
スラーとは一線を画して吹いてください。  
音のアタマにアタックは付けなくてください。

練習番号24 ☆ テンポが変わります (120)  
直前のフェルマータの音符を吹き伸ばしてる間に予備拍を2拍とりませう。

- ☆ Whip の一発で場面転換です。  
奏者にも観客にも聞こえるようにお願いします。
- ☆ 練習番号3と同じ12/8の形が現れます。  
本来 12/8 は 4拍子のそれぞれの拍が3つに分割されたものなのですが、この曲ではそれが一筋縄では行かないのです。  
強拍の位置は小節毎に、パート毎に自由に移動し、複雑なリズムを作っています。  
譜例のように、強拍 (アクセント) は長い音価を持つ音符、タイがかかっている音符、スラーの頭の音符においてください。

- ☆ 3部の輪唱になっています。

第一群	Trp
第二群	Hrn, Cor
第三群	Trb, Euph

どんどん強い敵が襲ってくるように、後の群は前の群に埋もれてしまわないように主張してください。  
特に出だしの4分音符は「ここから始まる」のを主張してください。

- ☆ 4小節目の4拍目の付点四分音符で最高潮に達します。  
Trp. 1 の音は上の上の Des. とんでもなく高い音です。出ない可能性もあります。  
この音がコケてしまっても問題ないくらいに、他のパートが支えてください。

Trp. 3

Cor. 1-2

Trb. 1-2



Trp. 1 のチョー高い音を支えるべく出す音

- ☆ 2小節目から molto allargando です  
徹底的に遅くします。  
直線的に遅くなるのではなく、加速度的に遅くします。  
4小節目の4拍目から5小節目にかけての八分音符3つでフィニッシュです。  
4小節目の4拍目は分割して振ります。  
ここに音がある低音パートの方 (Bsn, A.Cl, B.Cl, B.Sax, Trb, Euph, Tub, St.Bass, Timp, BassDrum, Pno)は気合いいれてぶっ放してください。